

笑顔のために



「充実した産前教育を多くの妊婦さんに届けたい」

ゲアン省ヴィン市にあるリプロダクティブヘルスケアセンターで助産師として活動している野内恵理です。ゲアン省は首都ハノイより南に約300kmの北中部に位置しており、ホー・チ・ミン初代国家主席やその他多くの政治家を輩出した省として知られ、またホー・チ・ミン主席の生家や、クアロービーチは、観光地としても有名です。

私の活動するリプロダクティブヘルスケアセンターは“性と生殖に関する全ての人々の生涯にわたる健康”に関して、医療サービスを提供する施設です。具体的には産婦人科、不妊科、家族計画科、栄養科、入院病棟(約30床)があり、ゲアン省の全ての住民を対象に医療サービスを提供しています。分娩も取り扱っていますが、近年ではセンターに比べて分娩設備の整った病院が近くに新設されたこともあって減少しており、年間10例程度にとどまっています。

私の主な活動は、母親学級の運営、妊婦健診の実施、スタッフに向けた勉強会の実施です。センターは毎朝7時から始まり、昼休みがたっぷり3時間(11時~14時)あり、17時に終わります。この生活リズムには慣れましたが、昼に3時間も休憩はいろいろなから、始業時間を遅くして欲しいとずっと思っています。しかし、さすがベトナム。患者さん達も朝が早く、6時半にはすでに待合所で診察開始を待っています。

毎週月曜日には朝8時から母親学級を実施しています。私が赴任する前の母親学級は、妊婦さんが集まっても、忙しいということで開催されなかったり、内容が、妊娠週数を隔てずに全妊婦さんを対象としてい

るため、広く浅く、というものでした。そこで同僚らと、母親学級の必要性について話し合ったり、妊娠期を初期、中期、後期に分けて、各期に合わせた内容(初期には栄養指導、後期には分娩についてなど)に変更しました。実際に母親学級を行うときは、私と同僚の二人で行い、私の拙いベトナム語をカバーしてもらっています。パワーポイントで図示したり、胎児人形や乳房模型を使用することによって、妊婦さんにより理解してもらえるような工夫をしています。また妊婦さんの声を母親学級に反映し、より良い学級作りのために受講後にアンケートへの協力してもらっています。

ベトナムの妊婦健診の内容は日本とほぼ同じですが、ベトナムでは加えて骨密度検査を行います。妊婦さんの骨密度が低いと、胎児の骨や歯の発育に悪影響を及ぼすことがあるので、カルシウムのサプリメントが処方されます。

現在、赴任して10ヶ月が経過し、妊婦健診ではジェスチャーで通じる計測だけでなく、問診もスムーズにできるようになったと感じます。初めのうちは「赤ちゃんは動いていますか」「お腹は痛みますか」「出血はありますか」「何か気になる事はないですか」など、基本的な質問が通じなかったのが、発音のコツを掴めるようになると、日に日に通じるようになりました。さらに詳しい話ができたり、アドバイスを理解してもらえると、とても嬉しいです。しかしこれで浮かれてばかりいてはいけななあと思っています。とういうのも、妊娠・出産は病気



ではないものの、常に何が起こるか分からず、もし異常に傾き出すと、一瞬で状態が悪化し、母子ともに命の危険に晒されることもあるからです。私が妊婦さんの言葉を聞き逃したり、違う理解をした結果、母子を危険に晒すことも十分に考えられます。そのため少しでも、不安があれば、自分を過信せずと同僚に助けを求めようとしています。

振り返ると、ボランティアとして活動をしに来ているのに、いつも周りの方々に助けられてばかりのように感じます。また、活動前半では、言葉が通じず落ち込んだり、嫌な思いもたくさんしましたが、そこから助けてくれたのもベトナムの方々でした。残りの任期は、さらにベトナム生活を楽しみながら、同僚たちと協力しつつ、センターのよりよい発展を通して、少しでもベトナムの母子のサポートが出来ればと思います。

●プロフィール

野内 恵理 (のうち えり)

大阪府出身。助産師免許を取得後、大阪府南部の周産期センターで5年間勤務する。2017年11月からゲアン省リプロダクティブヘルスケアセンターに赴任。センターの患者満足度の向上を目指しつつ、より良い母子保健サービスを提供できるよう活動中。

